

会計トピック

オリンパスの不正会計 最大1000億円超の損失隠し

新聞報道

◆「飛ばし」◆

高山修一社長は損失隠しの原因が、過去に投資した有価証券がバブル崩壊後の1990年代に巨額の損失を抱えたことにあることを明らかにした。

損失先送りは、バブル崩壊で経営難に陥った大手行などでもみられた。不良債権を関連会社につけかえる「飛ばし」と言われる手法で、処理損失を少なくみせかける狙いがあった。

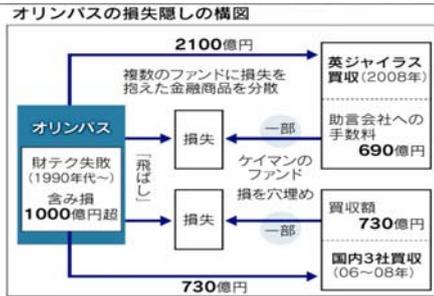
オリンパスは、投資損失を決算書から隠すために、英医療会社のジャイラス社など4社を、非常に高額な値段で買ったり、巨額の仲介手数料を支払ったりする手法を使った。ジャ社については経理上、仲介手数料など約660億円を支払った形にして、損失隠しに利用したとみられる。国内3社は、高値で買収して、いったん多額の費用がかかったことにおき、翌年に企業価値が下がったとして、減損処理をした可能性がある。これによって「投資による損失」が「企業価値を見誤ったことによる損失」に入れ替わった。

(2011年11月9日11時28分 読売新聞)

オリンパスHP



不正会計の仕組み



飛ばし

- 1.含み損(評価差損)のある金融資産を、原価で、子会社等に売却。
含み損が、売却先の子会社等に移転。
本体企業の財務諸表から含み損が消えます。
後年、株価が戻れば、子会社等に移転された含み損が、解消します。

- 2.含み損が解消しない場合、または拡大した場合。
(1)塩漬け → 山一證券の事例。
(2)移転先の子会社等に利益を移転し、その利益で、子会社等の含み損を処理します。→オリンパスの事例。
①本体が財テクで失敗したという事実が隠ぺいされます。
②損失処理の金額とタイミングを、本体の裁量で決めることができます。

監査報告書



監査報告書 一部抜粋

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オリンパス株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適性に表示しているものと認める。

教訓

天網恢恢疎にして漏らさず

老子

